

# 南湖再生WG

## ◆設置目的

南湖においては、水質の悪化や外来種の増加等によって生態系が危機的状況にあり、再生にあたっての課題抽出、対応方針の検討、事業実施の連携及び調整、事業進捗の確認、情報交換等を行う。

## ◆経緯等

- ・H18年 7月 7日 南湖再生WGの設置
- ・H18年12月14日 平成18年度 南湖再生WGの会議開催
- ・H19年 5月17日 平成19年度 南湖再生WG(第1回)の会議開催
- ・H19年秋(予定) // (第2回)の会議開催

## ◆構成機関

①滋賀県(琵琶湖環境部水政課他2部10課)、②大津市、③草津市、④守山市、⑤水資源機構、⑥水産庁、⑦近畿農政局、⑧近畿地方整備局(企画部、河川部、琵琶湖河川事務所)

# 南湖再生WGの取り組み

## ◆南湖再生に係わる各機関の取り組み

6機関45事業

## ◆直轄に係わる連携した取り組み

平成18年度

- ・瀬田川洗堰試行操作
- ・湖流解析の実施

平成19年度

- ・瀬田川洗堰試行操作
- ・南湖窪地対策事業・南湖の砂地回復事業
- ・新浜うおじまプロジェクト

しん はま

京都新聞(朝) 19年 1月 11日



琵琶湖の南湖の再生に向け、滋賀県や国、大津市などが連携して湖岸域の環境整備や水草の繁茂対策などの課題に取り組む「南湖再生プロジェクト」が本格的に動き出した。琵琶湖固有の在来魚が豊富に生息する「琵琶湖のゆりかご」を将来像に掲げ、生態化を目指す。

**琵琶湖岸保全や水草対策**

**南湖再生へスクラム**

大津市のほか、水産庁、国交通省近畿地方整備局、農水省近畿農政局、水資源機構が昨年十二月中旬にワーキンググループを策定させ、具体的な課題の検討に入った。

事務局の近畿地方整備局琵琶湖河川事務所によると、従来は関係機関の間に管轄区間の壁があり、琵琶湖の課題について各機関が個別に対応してきた。このため、ワーキンググループで各機関の事業内容を調整し、有効な対策については、国の〇八年度予算の概算要求で事業化を目指すこととした。琵琶湖河川事務所の河村賢一所長は「一体となった取り組みで効果的に成果を出し、ニゴロブナやホンモロコが安く供給できる湖に再生させたい」と話している。

このプロジェクトは、近畿六府県や国などをつくる「琵琶湖・淀川流域の再生協議会」が二〇〇五年三月、国の第六次都市再生プロジェクトを受けて策定した再生計画の一つ。

南湖で近年、問題となっている漁獲量の減少やヨシ帯の保全、外来魚の繁殖、水草の異常繁茂などを解決するため、県や

国や滋賀県が連携して再生を目指す南湖  
(草津市下笠町)



# 環境に配慮した瀬田川洗堰の試行操作について(1/2)

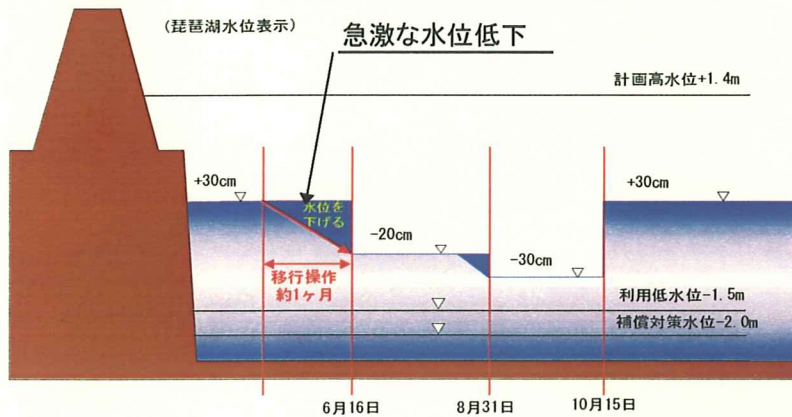


## ●目的

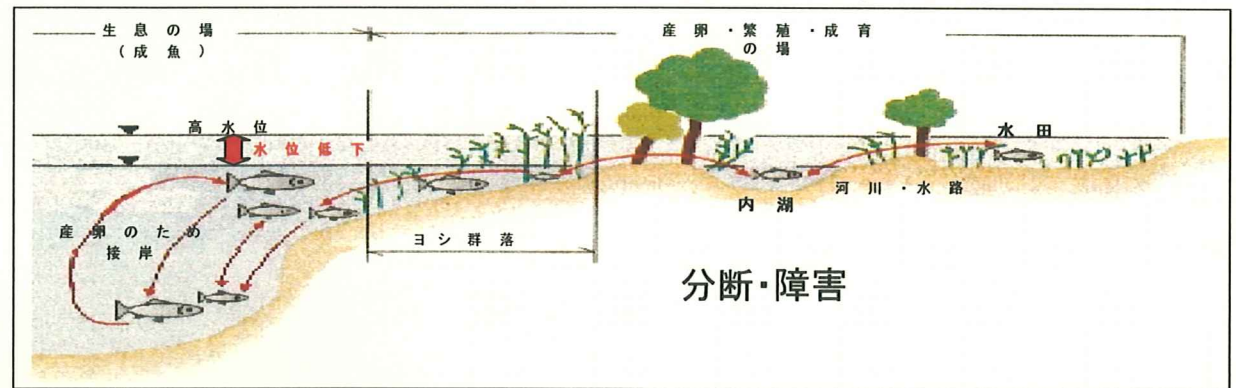
近畿地方整備局では、住民、関係自治体、流域委員会等からご意見を頂きながら、諸施策を進めているところです。琵琶湖の環境改善については、琵琶湖の急激な水位低下が魚類の産卵・生育等に影響を及ぼしているとの指摘もあり、平成15年度から治水・利水・環境の調和のとれた最適な琵琶湖の水位操作を目指し、治水・利水機能を維持しつつ、琵琶湖の急激な水位低下を緩和することを目的とした瀬田川洗堰の試行操作を実施しています。

## ●現状

洗堰の現行操作と琵琶湖水位

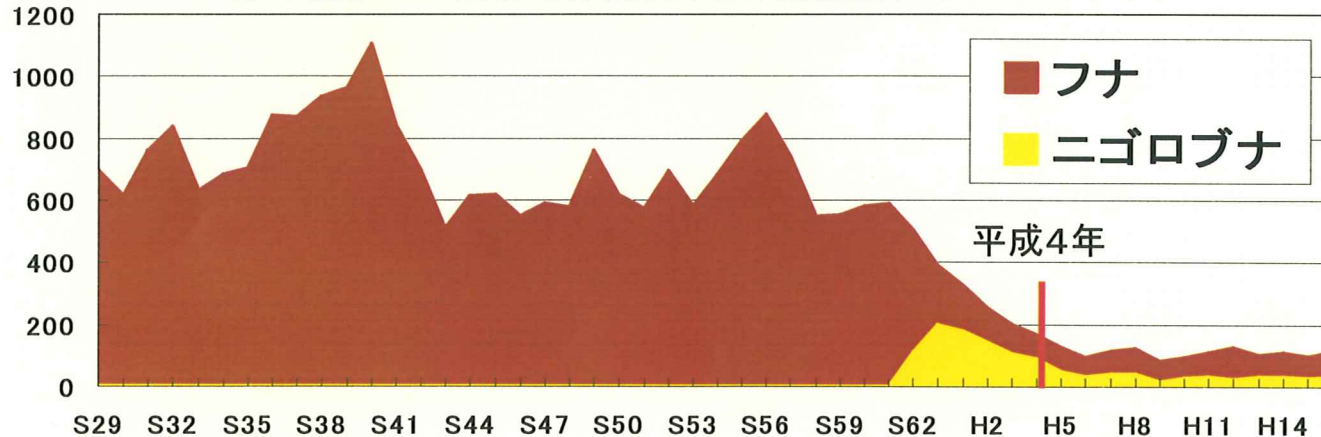


湖岸域での琵琶湖水位変動による水陸移行帯の遮断



(トン)

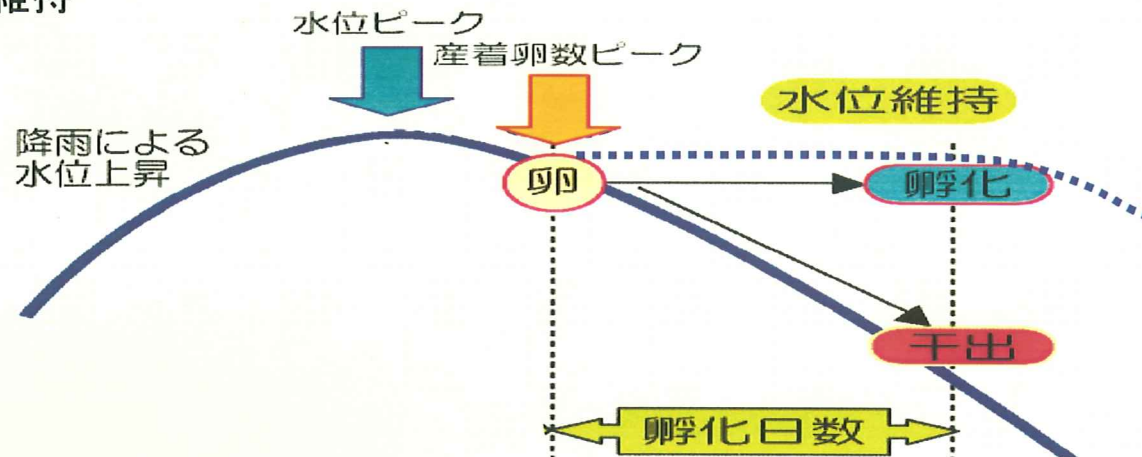
近年減少の一途をたどる琵琶湖の漁獲量(フナ・ニゴロブナ)



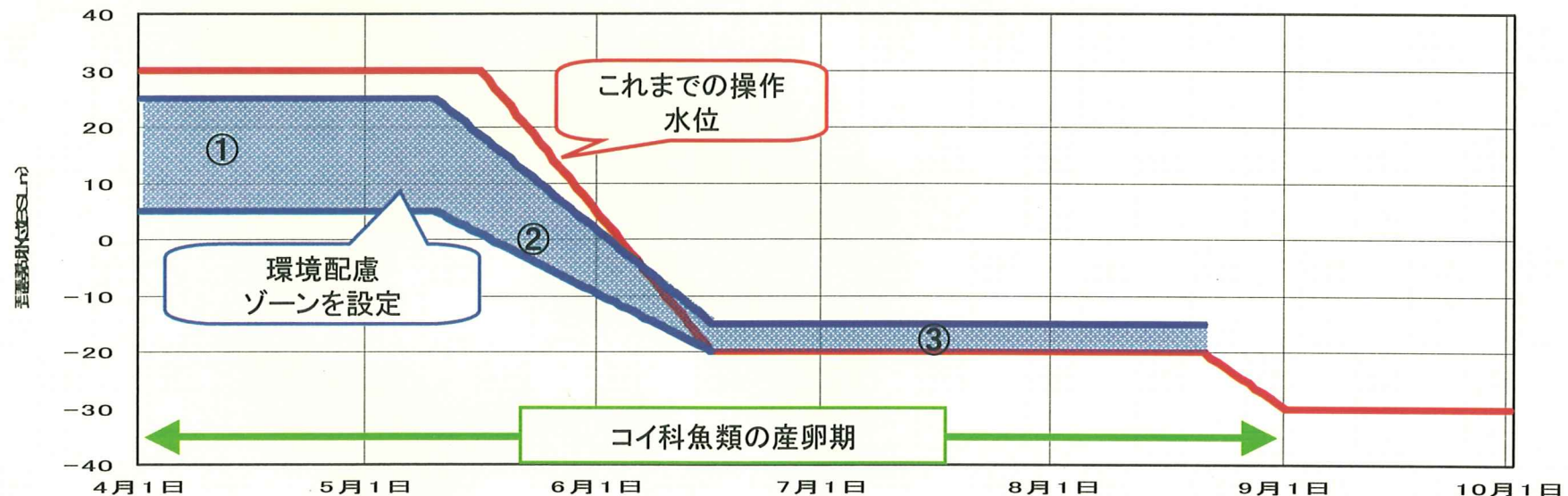
# 環境に配慮した瀬田川洗堰の試行操作について(2/2)



- 大産卵は降雨により琵琶湖水位が上昇した時に多く見られ、卵の干出を防ぐため、大産卵が確認された時は、産卵時の水位を5日間維持



- コイ科魚類の産卵期に環境配慮ゾーンを設定  
(平常時は下限を目標に水位操作し、産卵時の水位上昇は上限までを目標とする)





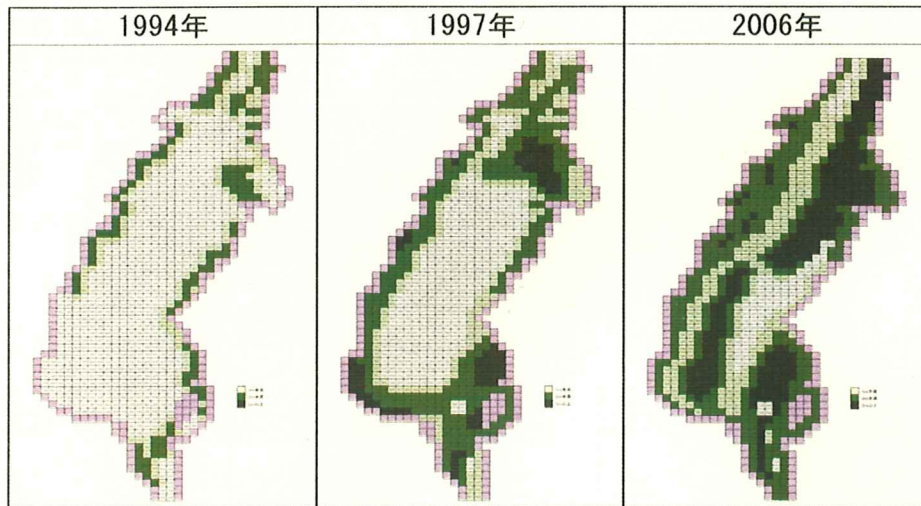
# 湖流解析モデルによる流速の検証について

## ●目的

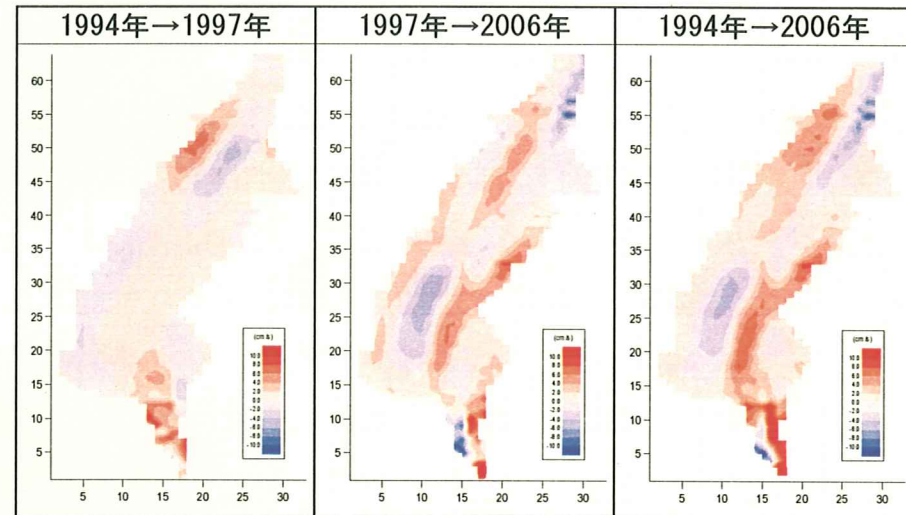
南湖において、

- ①瀬田川洗堰の出水時の放流量増加による流動変化がエリに対しどのように影響するかを把握するため
- ②それぞれの機関が実施する水草刈りによる湖流への影響などへの活用を目的として水草を考慮したモデルによる湖流解析を実施した。

### ■水草の繁茂状況



### ■表面流速の増減 (赤色が増加、青色が減少)



## ●結果

- ・出水時(全開放流時)の南湖の表面流速は、水草が少なかった1994年と比較して、多くなった2006年では、水草が少ない箇所の流速が速くなる。
- ・出水時のエリ付近の流速は、1994年と1997年と2006年の比較では、5~10cm程度の流速差が生じている。

## ●今後の予定

- ・平成19年度は、洗堰の放流量増加時の流速を測定し、湖流解析の精度向上を図る。



# 南湖窪地対策事業・南湖の砂地回復事業

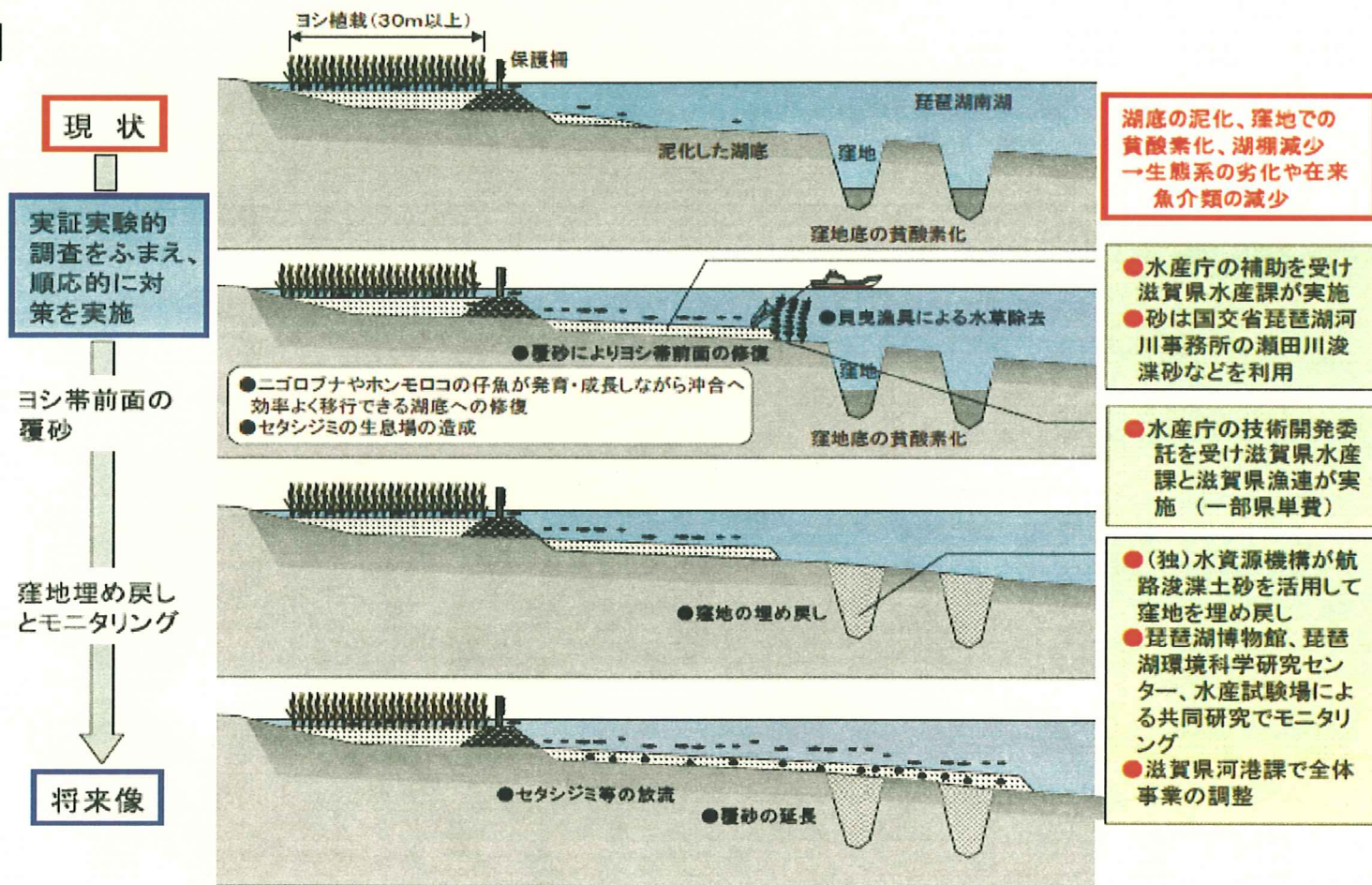
## ●目的

南湖湖底の泥化、窪地部分での貧酸素化などにより、在来魚介類が住みにくい環境となっている。

このため、国土交通省、水産庁、水機構、滋賀県等の連携により、湖底の耕耘やヨシ帯前面の覆砂、窪地の埋め戻しなど湖底環境の改善を実証実験的調査を踏まえつつ順応的に実施し、魚介類の住みやすい環境を再生し、湖の生態系の回復を図る。

平成19年度は、昨年度から実施中の湖底120haの耕耘による水草除去に加え、草津市下笠沖合でヨシ帯前面へ2.5haの覆砂、烏丸半島沖の窪地における約10千m<sup>3</sup>の窪地埋め戻し試験施工を実施予定。

## ●イメージ図





# 新浜うおじまプロジェクトについて



## ●目的

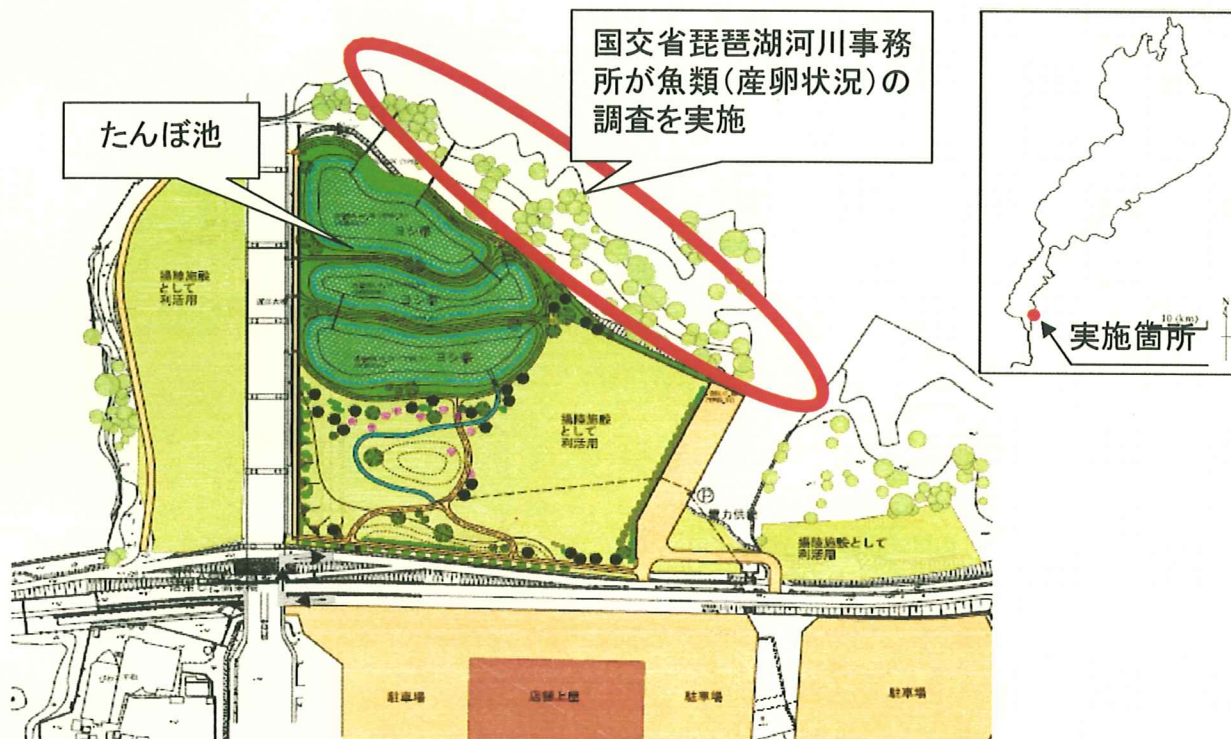
琵琶湖の水位操作は、琵琶湖の沿岸の水陸移行帯で産卵する魚類に影響を及ぼすことが指摘されています。このことを受けて(独)水資源機構が所管する滋賀県草津市新浜地区の約5haにおいて、コイ科魚類の産卵・生育を助け、琵琶湖固有の魚類を回復させるための、たんぼ池を平成19年度に造成します。

この取り組みは、国、関連企業、自治体、地域が連携しながらコイ科魚類の産卵・生育の場となる環境改善を目指しています。

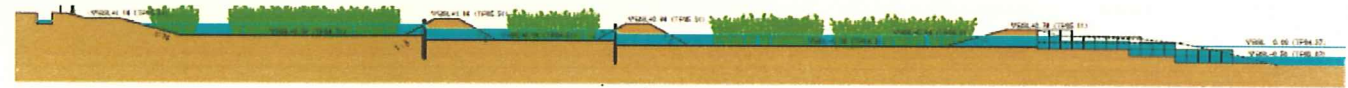


現況写真

(\*)「うおじま」とは湖岸に産卵にやってくる大群の魚の様子が、島のように見えたことから名付けられたと言われています。



整備計画平面図



たんぼ池断面図